石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第414号　平成30年4月1日発行

初代大樋長左衛門　《飴釉獅子香炉》
「茶道美術名品選Ⅰ」より

■ 名物裂と茶道美術

■ 茶道美術名品選Ⅰ

- 第74回現代美術展
- 企画展Topics「美の力」
- 今年度開催の展覧会
- 平成29年度の展覧会をふりかえって
- 展覧会回顧「加賀藩の美術工芸」「写真と幻想」
- 友の会バスツアー参加者募集

第2展示室

茶道美術名品選Ⅰ

前田育徳会尊經閣文庫分館

名物裂（めいぶつぎれ）と茶道美術

3月26日（月）～4月15日（日）　会期中無休

名物裂とは、そのほとんどが中国の元・明・清の時代に製織され、鎌倉や室町時代から江戸時代中期にかけて日本に舶載された染織品です。その種類は金襴・緞子・間道（かんとう）を中心に、錦・風通（ふうつう）・印金・モール・更紗など多岐にわたります。舶載の当初は高僧の袈裟や武将の衣服、能装束、あるいは寺社の帳や打敷として用いられましたが、茶道の興隆とともに、書画の表装裂や名物茶道具の仕覆として、優れた鑑識眼をもつ茶人たちによって賞玩され、舶載裂は「名物裂」としてその美的価値が確立され、やがて、その価値基準は、一寸四方が単位とされるまでに貴重なものとなりました。

前田家のコレクションの中でも、その質・量ともに優れた名物裂は、三代藩主利常が寛永十四年（一六三七）、当時唯一の海外への窓口となっていた長崎へ、家臣を目利きとともに遣わせ、買い求めさせたものがその中心です。利常の美意識には、他の大名の追随を許さないものがありましたが、この名物裂収集にもそうした想いが明確に反映されています。今回は、金襴を中心として緞子、間道、モールなど二十八点を展示しますが、染織品は美術工芸品のなかでも最も脆弱なものであり、保存公開の原則により短期間の展示公開となります。《玳皮盞天目茶碗（梅花天目）》や《古瀬戸茶入　銘孫六》などの茶道具と合わせて、前田家の美の力の一端を感じ取っていただければ幸いです。

《一重蔓牡丹唐草文様金襴》

加賀藩祖・前田利家と、嫡子で二代藩主・利長は千利休から茶の湯を学んでいます。そして裏千家四代仙叟宗室は三代利常から五代綱紀に仕えており、加賀藩主・前田家は千家と深い関わりがあります。さらに小堀遠州や金森宗和ら有力茶人との交流をとおして、前田家は独自の茶道文化を主導しました。その特徴は茶の湯を広く奨励したことであり、家臣のみならず町人、職人も茶の湯をたしなみ、高い美意識が生活の中に取り入れられました。その伝統は今日まで連綿と継承されており、当地には全国的に注目される茶道美術の逸品が数多く集まりました。

今回の特集は、四月二十一日から始まる企画展「美の力」に関連して、館蔵品・寄託品の中から企画展に出品されない名品を選んで展示します。一例として、絵画では久隅守景の《四季耕作図》（浅野家本）が注目されます。中国風俗によりながらも、本作には季節とともに生活する人々の表情が、多少のユーモアを交えながら豊かに描かれています。伝統的な画題に、どのようにして独自性を発揮してゆくかという課題に対する守景の一つの回答として、「美の力」に展示される重文の《四季耕作図》と合わせて是非ご覧いただきたいと思います。そして守景が金沢で活躍した時代は、楽・長次郎を始祖とする一入（楽家四代）の高弟・大樋長左衛門が、楽焼の技術を仙叟の指導のもとに新たに展開し、大樋焼として意欲的な作品を生み出していった時期にあたります。こうした当地ゆかりの個性的な芸術家の競演も、本展の見所となっています。

《西湖図》　狩野興以筆

企画展Topics

石川県立美術館開館35周年・金沢美術倶楽部創立100周年

美の力

4月21日(土)～5月20日(日)　会期中無休

美に殉じた千利休の気魂は茶弟で加賀藩祖・前田利家以後の文化観を方向付け、前田家は戦略的姿勢から江戸幕府に対して文化による地域の独自性を打ち出し、名品の収集や美術工芸の振興など様々な政策を展開して、今日に至る「加賀百万石」のブランドイメージが形成されました。そして、明治時代以降の石川県、金沢市の文化振興を牽引し、ブランド力を高めたのが実業家・数寄者や美術商でした。本展は国宝四点、重要文化財三十四点を含む、茶道美術を中心とした逸品の数々約百四十点を通して、「美の力」が当地の個性を確立していった道程を再発見するものです。さらに今回は金沢美術倶楽部の共催により、これまで展覧会の形で公開されることがなかった秘蔵の逸品が数多く展示されます。まさに百年に一度と言っても過言ではない、これら逸品の奇跡の邂逅にどうぞご期待ください。

■主な展示作品

国宝　古今集　巻第十九残巻(高野切)　前田育徳会蔵
国宝　墨蹟　山門疏　無準師範筆　五島美術館蔵
国宝　賢愚経残巻(大聖武)伝聖武天皇筆　巻第九　前田育徳会蔵
国宝　古今集(清輔本)　伝藤原清輔筆　前田育徳会蔵
重文　曜変天目茶碗　前田家伝来　MIHO MUSEUM蔵
重文　白磁蓮華文輪花鉢　前田家伝来　静嘉堂文庫美術館蔵
重文　黒楽茶碗　銘青山　楽　道入作　樂美術館蔵
重文　色絵月梅図茶壺　野々村仁清作　東京国立博物館蔵
重文　山水図襖　長谷川等伯筆　圓徳院蔵
石川県文　黒楽茶碗　銘北野　長次郎作　石川県立美術館蔵

■講演会　会場：石川県立美術館ホール
講師：熊倉 功夫氏
(MIHO MUSEUM館長)
日時：平成三十年四月二十九日(日)
午後一時三〇分～午後三時
演題：「前田家と茶の湯」
聴講無料、先着二〇〇名

重文《茄子茶入　銘富士》
前田育徳会蔵

第3～9展示室

第74回 現代美術展

3月29日(木)～4月15日(日)　会期中無休

昭和二十年十月に第一回展が開催された現代美術展は、本年七十四回展を迎えます。その間、文化勲章受章者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめ、多くの実力作家を生み出し、その成果は「美術工芸王国石川」として大きく花開いております。

本展では、所属会派を超えて、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門から、石川県美術文化協会会員らの秀作に、一般公募からの入賞・入選者の意欲作を一堂に展示します。

◆部　門
洋画(第7・8・9展示室)
彫刻(第3展示室)
工芸(第4・5・6展示室)
金沢21世紀美術館では、日本画・書・写真が展示されます。

◆入場料(金沢21世紀美術館と共通)

	一般	大高生	中小生
当日	一、〇〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
前売り	九〇〇円	五〇〇円	四〇〇円
団体	八〇〇円	四〇〇円	三〇〇円

※当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

◆作品解説　会期中、作品解説を行います。

平成30年度も
当館の展覧会をお楽しみください

平成三十年度は三つの企画展を計画しています。

春の企画展は「美の力」。当館の開館三十五周年と金沢美術倶楽部創立百周年を記念したもので、金沢市立中村記念美術館、金沢21世紀美術館の企画もあわせて三館で同時開催します。前田利家にはじまる加賀文化を再考し、明治時代以降の数寄者や美術商の活動も振り返り名品に投影されたさまざまな人々の思いをたどります。

秋は、「URUSHI―伝統と革新―」を行います。日本伝統漆芸展と当館の三十五周年を記念した展観です。近代漆芸の歩みをたどるもので、日本工芸会漆芸部会の設立に寄与し、ここまでの歴史を作り上げてきた作家のほか、現代の作家も紹介します。展示では人間国宝の名品から若手の意欲作まで幅広くご覧いただきます。

新春一月には「石川近代美術の一〇〇年」を開催します。石川県の近代美術の歩みを、明治期、大正・戦前期、戦後から平成の三部構成でたどります。昭和五十八年の開館から三十五年にわたる収集成果を示すとともに、当館の歩みを知っていただく展覧会です。

コレクション展示室では特別陳列として、前田育徳会尊經閣文庫分館で「前田家の名宝」「加賀藩の美術工芸」を行います。《広田社二十九番歌合》《入道右大臣集》など国宝を公開の予定です。古美術部門では、「よみがえった文化財」として二十九年度の石川県文化財保存修復工房の修復実績を紹介します。近現代美術では工芸で漆皮の研究を行った新村撰吉をはじめ、正倉院や伊勢神宮の宝物に学んだ作家を取り上げる「漆皮―近代の文化財修復と伝承―」、絵画で「静謐なる世界―日本画家 仁志出龍司―」を行います。その他の企画として夏休み親子で楽しむ美術館は「アートde動物大集合」、十一月には「東京国立近代美術館工芸館名品展」を予定しています。今年は染織・人形・ガラス・金工などの名品が紹介されます。

また企画展示室では当館企画の展覧会に加え、主催に加わる共催展として六月に「若冲と光琳」があります。江戸時代の絵師伊藤若冲と、その画業に魅せられた石崎光瑤を取り上げ、近世と近代を代表する花鳥画家の優品を紹介するものです。「生誕二二〇年　広重展」は七月の開催です。東海道五十三次で知られる歌川広重の全国各地の名所絵など主要な作品を展示します。

ほかに本年は「日展」「院展」はじめ二十六の展示が予定されています。今年も石川県立美術館の展覧会に足をお運びください。

石川県文《黒楽茶碗　銘北野》長次郎作
「美の力」

松田権六《鷺蒔絵棚》
「URUSHI ―伝統と革新―」
広島県立美術館蔵

吉田三郎《波》
「石川近代美術の100年」

平成29年度の展覧会を振り返って

平成二十九年度は、話題の多い一年でした。六月に皇太子殿下が石川県を行啓され、当館の付属施設である石川県文化財保存修復工房を見学していただきました。秋にはのべ五十二日間の会期で「21世紀鷹峯フォーラム」が行われ、百年のちの工芸を考える様々な催しが行われました。当館は中核館として八つの展覧会をはじめ講演会やシンポジウム、制作体験など十五のイベントを実施しました。そうした一年にあって、一階の企画展示室では三十一の展覧会、二階コレクション展示室では特別陳列・特集展示など三十六が行われました。

当館主催の企画展は三回。春に石川県文化財保存修復工房の設立二十周年を記念して「よみがえった文化財」、秋は日本画家石崎光瑤を中心とした「燦めきの日本画」、新春一月には木村雨山と二塚長生の友禅を紹介する「森羅万象をまとう」を開催しました。詳細はこれまでの美術館だよりに掲載の展覧会回顧をご覧ください。

コレクション展示室では、前田育徳会尊經閣文庫分館で特別陳列は「前田家　武の装い」「前田家の名宝」「百工比照」「加賀藩の美術工芸」の四つ。国宝の《万葉集（金沢万葉）》《土佐日記》が公開されたほか、前田利家着用の重要文化財《金小札白糸素懸威胴丸具足》が久々に展示されました。「21世紀鷹峯フォーラム」の期間中には《百工比照》が二年ぶりの公開となりました。

第2展示室では「茶道美術名品選」で《青井戸茶碗　銘宝樹庵》《粉引茶碗　銘楚白》《黒楽茶碗　銘北野》がそろって展示され注目を集めました。特別陳列「北陸ゆかりの画聖」では長谷川等伯、久隅守景、岸駒、佐々木泉景を取り上げました。

工芸では「高橋介州と加賀象嵌のあゆみ」、「棚の美」が「21世紀鷹峯フォーラム」会期中に行われました。加賀藩前田家の時代に興り、今日に受け継がれ現在もなお展開していく加賀象嵌の魅力を高橋介州と現代の作家の作品により紹介しました。松田権六《蓬莱之棚》、初代池田作美《遠州風彫刻桑材飾棚》など多様な様式・技法の棚も評判でした。「東京国立近代美術館工芸館名品展」のテーマは「陶磁いろいろ」。様々な素材や形、意匠のやきものが並びました。絵画では画題を植物一筋に求め、優れた写生画を残した「日本画家　池田瑞月」。夏には脇田和の小特集と「夏休み親子で楽しむ美術館　アートdeまんぷく」を行いました。二月には、当館では初めての開催となる写真の展示を行いました。吉川恍陽・冨岡省三・河野安志の物故作家を取り上げた「写真と幻想」で、新たな世界が広がりました。

「よみがえった文化財」

「燦めきの日本画」

「森羅万象をまとう」

展覧会回顧

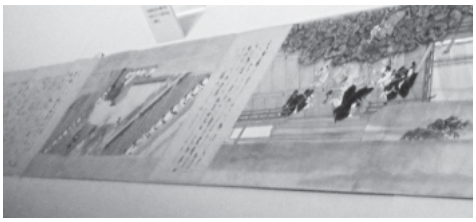
特別陳列「加賀藩の美術工芸」
特別陳列「写真と幻想」

特別陳列　加賀藩の美術工芸

「加賀藩の美術工芸」は、前田育徳会・尊經閣文庫分館のテーマ展示の定番となっていますが、本年度は会期が二月二十五日の道真忌の時期と重なったことから、重文《荏柄天神縁起絵巻》の巻中をすべて公開することを最大の見所としました。同巻は二十メートルに及ぶ長巻ですので、なかなかこのような展示はできなかったのですが、描かれた場面の短い解説と合わせて展示をしたことで、分かりやすいとの評価をいただきました。

さらに同巻の内容が、菅原道真が恩賜の御衣をしのび、天拝山頂で冤罪を訴えた後に世を去り、やがて亡霊となって延暦寺の座主・法性房尊意を訪ねて復讐の決意を伝え、雷神となって清涼殿を襲撃するなど、道真の無念や怒りを如実に表現していることから、同時に展示した重文《閑居友》をはじめ、収集あるいは育成した成果としての美術工芸の名品が加賀藩に集積した原動力の一端が理解されたように思います。

すなわち加賀藩主・前田家にとって、文化は江戸幕府に対して戦略的に主体性を表明する武器でした。それゆえに、先祖を菅原道真と定めた前田家にとっては、天神は理想的な精神的支柱となったのです。そして、このような文化に対する前田家の姿勢の根本は、藩祖・前田利家が千利休の生き様から学んだのではないか、との視点が三ページでご紹介した企画展「美の力」で示されます。利休への視点から、長谷川等伯や俵屋宗達、そして野々村仁清など日本美術史に銘記される芸術家の逸品の数々が有機的に関連づけられます。そうした作品の交響も、本展の見所となっています。



特別陳列　写真と幻想

デジタルカメラが普及し始めて二十年あまりになるでしょうか。当時のカメラの性能は、現在に及ぶべくもありませんが、それまでのフィルム撮影のコストや手間などを考えれば、後戻りできない技術革新でした。現在はスマートフォンの登場によって、誰もがシャッターチャンスを捉え、ＳＮＳを通して手軽に世界へと、自作を発信できる時代になりました。写真のレタッチ技術も進み、普段目にする商用写真の、ほぼすべてが何らかのデジタル加工を施されている時代です。

このような時代に、当館で初の試みとなった写真展は、デジタル技術を用いない三名の写真家によるものでした。最も年長の吉川恍陽氏は、デジタル普及前の世代ですが、冨岡省三氏、河野安志氏らは作品にデジタルを用いていたとしても不思議はない年代となります。なぜデジタルでなく、フィルムにこだわったのか。鬼籍に入られたお二人に直接聞くことができないのは残念です。

さて、このデジタルとアナログの関係は、量産品と手づくりの一品物との関係、また画集と実物絵画との関係に似ているかもしれません。芸術は実物を見てこそ、本当の良さを実感することができます。そういった意味では、当展において直に鑑賞者の眼に触れる機会を提供できたことは、美術館として大いに意味の有った事だと自負する次第です。

開催にあたり三名の作家のご親族をはじめ、北國写真連盟の皆さまから多大なご協力を賜りましたことを感謝申し上げます。

参加者募集

平成30年度　友の会第16回バスツアー

富山再発見の旅 ―富山最古の仏像に会いにいく―

期　日／平成三十年五月二十七日(日)
集合時間／午前七時二〇分
発　着／金沢駅西口団体バス乗り場
参加代金／友の会会員　七二〇〇円
　　会員以外　七七〇〇円
募集定員／四十二名

◆見学地

【常楽寺】北陸三十三ヶ所観音霊場の一つである本寺には、平安時代の作となる、いずれも重要文化財の聖観音立像と十一面観音立像が伝わります。富山県最古の木像として信仰を集めています。

【日石寺】古代より霊山として崇められてきた立山の周辺には、修験道に関わる寺社や史跡が多くあります。本寺もその一つで、通称「大岩不動」と呼ばれる三メートルを超える不動明王とその眷属たちの摩崖仏で有名です。

【朝日町立ふるさと美術館】朝日町は、古くから北陸街道の宿場町として栄えてきました。本館はその町の文化の拠点として、平成三年に開館。今回は近現代の木彫の展覧会をご覧いただきます。

【富山県美術館】富山県立近代美術館から名称を改め、二〇一七年にリニューアルオープンした本館。近現代美術の豊富なコレクションとともに、立山連峰のパノラマビューをおたのしみください。

◆申込方法

往復はがきに下記の事項を記入し、ご応募ください。応募者多数の場合は抽選になります。

常楽寺観音堂

①往信はがきの裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号(ある方のみ)をお書きください。
②返信はがきの表面には返信先をはっきりとお書きください。消えるボールペンは使用しないでください。
③返信はがきの裏面には何も書かないでください。

◆応募先

〒九二〇－〇九六三　金沢市出羽町二－一
石川県立美術館バスツアー係
応募締切／四月二十日(金)必着
※応募者一名につき、往復はがき一通でご応募ください。ペアでお申し込みの方は、お一人ずつはがきを投函し、その上で「〇〇さんとペア申込」とお書き添えください。
※急な階段や歩きにくい道が行程に含まれます。
※昼食は、ほたるいか尽くしになります。代替メニューがありませんのでご注意ください。

4月の行事予定

■映像ギャラリー　午後1時30分～　美術館ホール　入場無料

22日(日)	石川の文化財～彫刻・書画・典籍編～ 《文化財からのメッセージ》 21分
	石川の文化財～工芸品・工芸技術編～ 《文化財・今に伝わる技術》 21分

■講演会　午後1時30分～　美術館ホール　申込不要・聴講無料

29日(日)	前田家と茶の湯 講師　熊倉功夫氏　MIHO MUSEUM館長

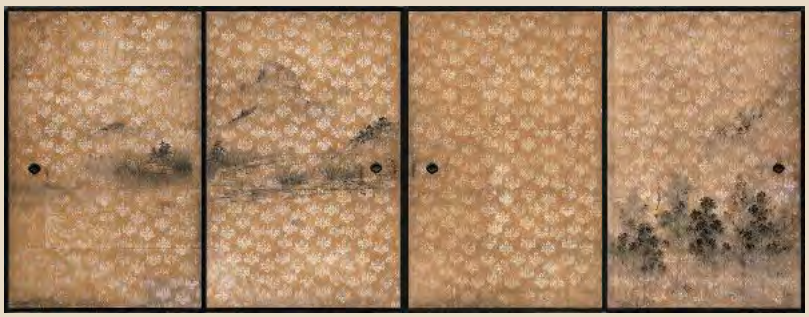
石川県立美術館開館35周年・金沢美術倶楽部創立100周年記念特別展 **美の力**

企画展Topics

会期：平成30年4月21日(土)～5月20日(日)

《狗子図》(部分)　俵屋宗達筆

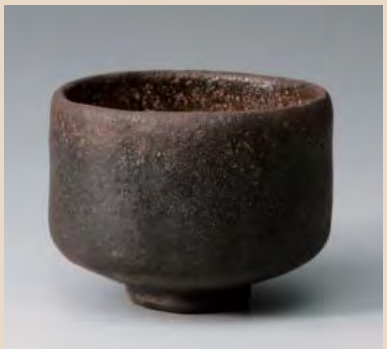
《書状　菊月二十二日付　伊勢侍従宛》　千利休書
大阪城天守閣蔵



重文《 山水図襖》　長谷川等伯筆　圓徳院蔵

重文《色絵鱗波文茶碗》　野々村仁清作
北村美術館蔵

重文《曜変天目茶碗》MIHO MUSEUM蔵



《黒楽茶碗　銘 万代屋黒》　長次郎作
樂美術館蔵

次回の展覧会

平成30年4月20日(金)
～5月20日(日)

前田育徳会尊經閣文庫分館	第２展示室
名物裂と茶道美術 ―藩主の茶の湯問答―	茶道美術名品選Ⅱ

第３・６展示室	第４展示室	第５展示室	１Ｆ企画展示室
新収蔵品展 優品展	静謐なる世界 ―日本画家 仁志出龍司―	草花を詠う ―友禅 水野博―	美の力 4月21日(土) ～5月20日(日)

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　360円(290円)
大学生　290円(230円)
高校生以下　無料
※(　　)内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション展示室無料の日(4月は2日)

今月の開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後7:00 年中無休

4月の休館日は
16日(月)～19日(木)

広告
「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？
石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ
郵送配布!! 3,000部発行
ターゲットを狙った 知名度向上
県立美術館発行の 信頼度の高い広報媒体
お問い合わせは ☎092-716-1401
株式会社ポープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q－Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより
第414号(毎月発行)
2018年4月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/